

# ホタルのニュースレタ

日本ホタルの会 2003/1 第24号

## 台湾のホタル近況

日本ホタルの会理事 小西正泰

最近、台湾産のホタル類に関する単行本が2点刊行されたので、同地のホタルをとりまく近況を概観する一助として紹介することにしたい。

1. 陳燦榮『台灣螢火蟲生態導覽』191ページ、1999年、台北市：田野影像出版社（495元）。

「螢火蟲」はホタル、「導覽」はガイドブックのこと。台湾のホタルに関する最初の総論的単行本と思う。その主要な章は次のとおり。

ホタルの観察、昆虫世界の神秘、ホタルの一生、代表的なホタルの生活史、ホタル発生地復活、ホタル観賞地の情報、台湾で常見されるホタル図鑑など。気のついたことを下記する。

「ホタル図鑑」の章には鮮明なカラー写真（成虫・幼虫）とともに漢名・学名・形態・生息地・分布・幼虫などについて箇条書きしている。種数は計37種。巻末の台湾産ホタル類のリストにはホタル科45種、イリオモテボタル科（「雌光螢」）1種（イリオモテボタル「大場雌光螢」）の学名が列記されている。日本では「謎のホタル」ともされる *Luciola japonica* (Thunberg) キイロボタル（「黄熠螢」）はリスト・アップのみ。

次に幼虫が水生の種類は3種ある。すな

わち *Luciola ficta*, *L. substriata*, *L. sp.* である。また、次記の種は幼虫が半水生という。*Pristolycus kanoi*（スジグロボタルの1種）。イリオモテボタルを台湾で発見し飼育している。

なお、著者の陳氏は何度も来日し大場信義博士の指導を得ており、全国ホタル研究会にも出席している。

2. 何健鎔・朱建昇『台灣賞螢地圖—台灣地區螢火蟲生態豐富之旅』325ページ、2002年、台中市：晨星出版（450元）。

書名が示すように、台湾におけるホタル観賞の名所を地図で示している。次記の6章から構成される。発光生物の美、台湾のホタル観賞地図、ホタルの生活、ホタルの飼養と観察、台湾で常見されるホタルの図鑑、ホタルの保育。カラー写真の印刷は鮮明で、邦書と比べても遜色はない。

ホタル名所100選が地図とともに解説されている。ホタル図鑑では44種が図説される。幼虫が水生なのは、上記書1と同じく3種である。巻末の台湾産ホタルの種名リストにはホタル科は57種（うち既知種50、種名不詳種7）、イリオモテボタル科は1種（邦産と同種）がある。

ホタルの飼育法を解説し、また生息地の改善について述べている。この環境改善に

については、(1)水質の浄化、(2)コンクリートブロックの排水溝を減らす、(3)街路灯など人工照明の設置を減らす。または電球に「黒漆」を塗り「光害」を防止する、(4)水源の涵養、(5)有機農法との結合などを奨めている。なお、日本におけるホタルの保育運動にも言及し、「日本ホタルの会」と「全国ホタル研究会」について紹介している。

上記の2書を見ると、台湾においてもホタルは観賞用昆虫として愛護され、またその発生環境も保護されていることがわかる。陸生ホタルの幼虫が、かなり調べられていることにも注目したい。ホタル類の種数が日本と同レベルであることや、水生幼虫が3種であることなど、わが国との類似点(日台間の共通種は少ないが)にも興味を覚える。

## クメジマボタルの島より

クメジマボタルの会・久米島町教育委員会 宇江城洋一

鈴木氏よりレター投稿依頼されたときは、ホタルの知識は希薄な私にとって、どのようなものかと思いました。しかし、「ホタルのニュースレター」を読みますと、私達がお世話になった方や、書物等でしか知らない方々の名前がありました。これは、皆様に久米島のことについて知っていただくありがたい機会を得たのだと考えをあらため、私のつたない文章が少しでも島の役にたてばと思い、投稿いたします。

### 会の発足

沖縄にはイリオモテヤマネコやヤンバルクイナをはじめ貴重な固有種が数多く生息しています。久米島でも約20種の固有種(動物)がいます。限られた小さな土地ですが、生物の種の多様性が高い島と言われている。

1993年、クメジマボタルは日本で3番目の水生ボタルとして久米島で発見されました。新種であるクメジマボタルは久米島にしか生息しておらず、日本各地の河川環境保全等の取組でシンボリック位置にあるゲンジボタルと酷似しています。これらのことは、他の沖縄に生息する他の固有種と

は違い、特別な意味をもつ貴重な「宝物」が発見されたと思いました。

ゲンジボタルを通しての、各地から環境保全の在り方等多くのことが学べるとや、人的交流においても魅力的な存在であると考えました。

また、島の自然環境保全にかかわる重要な昆虫だと認識し、村職員の盛本氏や仲村氏ほか村の職員をともに、クメジマボタルの会を発足し今日にいたっています。

発見当時の久米島は、ダムの改修工事や、飛行場建設など大型土木事業が盛んに行われていて、基幹産業であるサトウキビ農業などによる海岸への赤土流出や、生活排水等の影響で、海岸環境は年々悪化している状況にありました。

現在も、河口付近のエメラルドグリーン珊瑚の海が大雨のたびに赤く染まり、心の痛むおもいは今でも繰り返されています。特に多くの島民の生活を支えているサトウキビ農業との関係や、下水施設の抜本的対応策がない現状では、なかなか改善されないことも事実です。

しかし、クメジマボタルが発見されて以

来、身近な暮らしの中から自然環境保護に対し声をだす人が多くなってきたことも事実です。大げさな表現かもしれませんが、久米島の自然環境保全に向けて、足下から確かな一歩を歩みはじめたと思っています。

### 全国ホテル研究大会の開催

平成15年4月18日(金)～20日(日)の日程で、「～わたしたち島ホテルが住む町住める町～:共に生きよう輝こう」をテーマに第36回全国ホテル研究大会が開催されます。

昨年の12月はそのプレ大会として、発見者の木村正明氏、発見当時調査をしていただいた佐々木健志氏(琉球大学資料館)、後藤好正氏・鈴木浩文氏(全国ホテル研究大会事務局)をお招きし、久米島のホテルを中

心とする自然環境保全についてシンジウムを開催しました。地元から自然保護を声にした企画であることは、一定の評価を得ることができました。

東シナ海にボツンと位置する久米島の自然環境には、私達住民の取組次第では他に類のない自然環境保全や再生の取組ができるすぐれた条件が備わっていると考えています。大会で多くの方の意見やご指導をいただけたらと思います。

久米島は、珊瑚の海、沖縄の代表的な植生、白い砂浜が身近にみられ、琉球民謡や伝統芸能等文化面も豊富で、沖縄のすべてに出会える島です。ご来島をお待ちします。

## 第11回「ホテルを通じて身近な自然を考える」シンポジウム開催される

平成14年11月19日、上野動物園において日本ホテルの会、東京都恩賜上野動物園共催による第11回「ホテルを通して身近な自然を考える」シンポジウムが開催され、約80名の参加者がありました。講演の予稿集を同封致しましたのでご査収下さい。



第11回シンポジウムの様子

## ホテルサミット in 八千代

平成14年10月26日、千葉県八千代市の勝田台文化センターにおいて「ホテルサミット in 八千代」が開催されました。八千代市では平成5年から9年にかけて市内の米本地区の水田を「ホテルの里」にするための造成工事を行い、平成7年には「ホテルの里づくり実行委員会」が発足しました。発足5年を区切りに、本実行委員会が中心となり千葉県内外の30ほどの団体と共にホタ

ルサミットが企画されました。

3件の事例発表「大原町のゲンジボタルの現状と保護活動について、手塚幸夫」「ホテルを通じて見えてくる環境問題とまちづくり、加藤賢三」「市川に自然な水循環をもとめて、佐野郷美」と基礎講演「日本のホテル・世界のホテル、大場信義」のあと、自然系、ビオトープ系、里山・谷津田系に分かれてワークショップが持たれました。

## 事務局からのお知らせ

### 会費の請求時期について

本会の会計は年度制(4～3月)となっておりますが、1999年8月に会費の変更があった時点から8月のご請求となっております。次年度からは4月にご請求致しますので、ご承知置き下さいますよう、よろしくお願い致します。

### 平成13年度会計報告

平成13年度日本ホタルの会決算について、会員の小俣軍平さんに帳簿、証拠書類等を監査して頂きました。その結果、会の運営上必要な内容に留まっており、適正に処理されていることを確認して頂きました。収支計算書は別紙同封致しましたのでご確認下さい。

### 寄付金

次の方々より会の活動資金を寄付して頂きました。この場をお借りしてお礼申し上げます。本会の財政はたいへん厳しい状況にあります。寄付金は常時受け付けておりますので、よろしくお願い申し上げます。

山本矩正 様(東京都昭島市、「里川螢」) 2001年11月

矢島 稔 様(東京都日野市、「日本ホタルの会会長」) 2002年12月

### 寄贈図書

「リコーグループ環境経営報告書2002」, 株式会社リコー

### 第4回談話会

昭和女子大学(世田谷区三軒茶屋)にて2月に予定しております。詳細が決まり次第お知らせ致します。

---

ホタルのニュースレター 第24号 平成15年1月31日発行



編集 日本ホタルの会事務局  
発行 矢島 稔  
156-0041 東京都世田谷区大原2-17-6  
ステーションプラザ代田橋410  
(株)オーグラム内 日本ホタルの会事務局  
TEL & FAX: 03-3328-7379  
e-mail: KYW07337@nifty.ne.jp

印刷 システム印刷株式会社  
191-0031 東京都日野市高幡454  
TEL: 042-591-1411 FAX: 042-591-7701